

## 第1回下川町環境保全対策審議会 審議概要

日 時 平成28年8月25日（木）16時00分～17時20分  
場 所 役場2階会議室  
出席者 林宏会長、牧村洋副会長、川島里美委員、  
坂入奈緒美委員、渡邊大介委員 計5名  
税務住民課 谷町長、長岡課長、古内主幹、山中主査、平木事務補  
計5名

### 1 開会

### 2 町長挨拶

町では15種類の分別を行っているところだが資源化率で道内で高い数値になっている。町民の皆さんの分別の意識が高いと思う。今後可能な限り資源化に努めていきたい。減量化にもつながっていくと思う。今回、下川町の一般廃棄物最終処分場が一定程度満杯になってくる状況になってきた。今後、広域によって廃棄物の処理を進めていく。現在、下川町・名寄市・美深町・音威子府村の4市町村の広域で平成30年4月から供用開始に向けて最終処分場の建設をしている。広域化後の運用方法、運搬方法、料金など委員の皆さんにいろいろ議論をして頂き、下川町民が使いやすい広域処理にしたいと考えているので幅広いご意見をいただきたいと思う。

### 3 諮問

「下川町の今後のごみ処理について」

町長が諮問を読み上げ、会長に諮問書を手交。（手交後、町長退席。）

### 4 会長挨拶

・私たちの生活には非常に切実な問題である。みなさんに慎重に審議をお願いしたい。

## 議案

(1) 下川町のごみ処理について

(2) 審議会のスケジュールについて

事務局 資料1・2に基づき説明。

委員 新しい最終処分場は埋め立て期間が15年になっているが、15年を過ぎたら新しいものを考えるのか。

事務局 15年経つとまた新たな場所を選定するか違う方法を考えることになる。

委員 この最終処分場の施設に対して、いつごろから議論が始まってこの状況になったのか。

事務局 決定したのは平成25年だが議論を始めたのは平成22年頃。下川町の他に名寄市・美深町も埋立地が満杯になる状況であった。単独で持つとなると10億円以上かかり、単独で持つ場合は補助制度に乗らない。国もなるべく広域で作りなさいということになってきた。そして、平成25年度に広域でやることになった

委員 現在、埋立地への直接搬入が8割を占めている。家庭ゴミでも50%が直接搬入である。理由としては、ゴミ袋を使わないで軽トラで自由に持っていける。そして、10キロ43円と安いので直接搬入するものと考え。パターン2が現状のままがいいと思う。パターン1の場合は名寄市に持っていったら金額の還元があってもいいのではないか。

事務局 今の状況だと名寄市に直接持っていった場合10キロ83円になる可能性がある。理由としては名寄市が今の金額と変えない方針であると聞いている。

委員 時間をかけてまで名寄市に高い金額で持っていくかなと思う。埋め立て地にゴミを持ってきているのは大体決まったような人たちである。大きな引っ越しなどが無い限り毎週同じような人たちが持っていると思う。

名寄市まで運ぶとなると遠いと思うが、パターン2のストックヤードについて町として具体的なものはあるのか。

事務局 今年度、ストックヤードを立てたらどのぐらいの金額がか

かるのかという部分と計画をコンサルにかけてやってきたのでその資料を配らせてもらう

事務局 ストックヤード概要説明

委員 今回の分別は変えないほうが良いと思う。町民も迷ってしまう。しかし、高齢者で分別ができないという問題もあるので考えていく必要があると思う。

委員 それは公区の中で考えていった方が良いと思う

委員 新しい施設は埋立期間が15年間となっているができるだけ長く使えるようにする必要がある。次の世代のことを考えるのであれば今回変えることも必要だと思う。

事務局 良い方向に変えれば良いと思う。

委員 名寄の分別はどうなっているのか。

委員 分別は下川に近いと思うが、その他紙が資源化されずに炭化ごみになっている。その他にも、生ごみも炭化になっている。炭化されたあとの燃えかすも増える。せつかくリサイクル協会で分別のマークをつけているのに分別しない手はない。

委員 最終処分場の延命化のために、下川町の分別の方法を他の町に提案するのも1つの手ではないか。

委員 搬出は週に1~2回か。

事務局 月に5回を予定している。

委員 建設費はいくらを予定しているか。

事務局 8,500万円ぐらい。その他に水処理も考えなければならない。

委員 埋立てで気になるのが、火災が心配である。

委員 有毒ガスもある。

委員 埋立地にはいろいろなものを捨てる。

委員 これが今考える一番の方法か。

事務局 建物は何案か考えたが、コストなどを考えこれが一番となった。

委員 火災などは換気を管理すれば防げると思う。付加をつけると金額も上がると思う。基本的には住民サービスはきちんとしてほしい。

事務局 作業を考えると飛散や雪を考えると壁・屋根は必要。

- 委員 パターン1は収集したら、直接名寄へ持っていくのか。  
事務局 直接持っていくことになる。サービスの的には低下するが、  
処理が一番楽である。
- 委員 基本は名寄に直接搬入だが利便性を考えるとストックヤード  
があった方がいい。その建設費分を金額に上乗せするという  
ことも考えられる。下川式の料金でもいいと思う。  
住民サービスもいいが、軽減化も考えなければならない。
- 委員 上乗せした分を管理費に回したりするといい。
- 委員 個人的には、埋立ごみがそれほどたまらない。衣類や小型  
家電は無料で出せるしきちんと分別すれば、月1回もたまら  
ないのではないか。
- 委員 それにしては、埋立のペースが早い。  
委員 買い物の仕方にも問題があるのではないか。  
委員 きちんとごみが分別されているかチェックはしているか。  
事務局 委託事業者がきちんとしている。  
委員 軽トラで行ったら荷台を見る。  
委員 社員教育が徹底していると思う。  
委員 スtockヤードの建設費を15年で割ると1年間600万円の  
金額を使える。そのお金で個別の収集に対応できない方に何  
らかのサービスを提供することで、不便が解消されるのでは  
ないか。  
建物にお金をかけるより、サービスに使ったほうが良いと  
いう考えもある。  
便利で使いやすいのはいいが将来の負担になる。可能な限  
り減らしていく。
- 委員 これから人も減っていく。  
事務局 しかし、ごみは減らない。埋立ごみは逆に増えている。  
委員 スtockヤードは建設した方がいいのではないか。  
委員 25kmの距離は遠い。高齢者は、特に遠く感じる。  
委員 ごみだけを積んでいくのはどうか。  
委員 総合的に考えれば必要だと思う。  
委員 住民の方も必要という意見が多いのではないか。  
委員 料金はどうか。

- 委員 受益者負担を考えた方がいい。
- 委員 料金が上がる理由を行政が説明をしっかりとできればいいのではないか。事業をやっている人達は収集がないので、名寄せへ持っていくのは大変だと思う。
- 委員 家庭系と事業系に料金を分ける必要があるのか。事業者から見たら同じではないか。
- 事務局 事業系は全てごみは統一料金である。
- 委員 しかし、基本は分別してもらおう。
- 委員 分別の努力をした人にはメリットがあるべきである。
- 委員 金額的なメリットがあったらいい。
- 委員 資源にいくようにできればいい。企業努力分は安くした方がいい。料金も段階を踏む必要があるのではないか。
- 委員 埋立ごみが年間 400 t たまるとしたら、15 年で 6,000 t と考えると、ストックヤードの建設に換算すると 10 kg 140 円ぐらいになると思う。
- 委員 施設は収支とは別で、公共サービスなのでそういうものではないのではないか。
- 委員 コスト感覚は必要だと思う。それだけ、建設費がかかることは理解してもらう必要がある。
- 事務局 スtockヤードを建設しないのであれば、あと 1 年かけて方法を考える。収集を増やすなど。
- 委員 不便になると不法投棄が増えるのではないか。
- 委員 ごみステーションの大きさも考える必要があるのではないか。
- 委員 施設の運営費はどうなっているか。
- 事務局 均等割が 30% で実績割が 70%。  
実績割が 70% なので、埋立ごみが少なければ負担も少なく済む。  
今後、町民懇談会でも意見徴収する。
- 会長 他になければ、第 1 回環境保全対策審議会を閉会する。